「振り込め」未然に防ぐ

大垣信金本店と大垣共立銀支店 大垣署が感謝状



感謝状を受けた大垣共立銀行の兼松信吾支店長(左端)と後藤静香さん(左から2人目)、大垣信用金庫の北久志部長(中)、宮内みちるさん(右から2人目)＝大垣署

大垣署は、振り込め詐欺などを未然に防いだとして、大垣信用金庫本店と大垣共立銀行赤坂支店に署長感謝状を贈った。

同署などによると、大垣信用金庫本店では今月8日、80代の女性が来店し、1千万円を引き出そうとした。金額が高額であることから窓口の宮内みちるさん(46)が理由を聞いたが、曖昧だったため不審に思い、上司に報告。もうけ話をうたった詐欺と分かり、同署へ通報して、女性を説得した。

大垣共立銀行赤坂支店では今月12日、来店した80代女性が、口座残高のほぼ全額を引き出そうとしたため、女性が普段は現金自動預払機(ATM)を利用していることを知っていた後藤静香さん(26)が、詳しい話を聞くと、「銀行に預金を預けておくのは危険。預金を引き出すように」と警察官や銀行協会を名乗る電話があったことが判明。支店長に報告して同署へ通報し、被害を防いだ。

贈呈式には、同信金の北久志部長(52)と宮内さん、同銀行の兼松信吾支店長(53)と後藤さんが訪れて感謝状を受け取った。

服部勝人署長は「被害を防いでもらい大変ありがたい」とお礼を述べ、北部長らは「金融機関が最後のとりでという認識で取り組み、声掛けを大切にしている」と話した。(佐名妙予)

無断複製・転載を禁じます